



激変する生態系から市民生活を守るために

小野寺 貴男 (蒼倫維新)



問 巨木化する雑木、特にアカメガシワは、空き家等で一旦生育すると、枝木が伸びて道路に覆いかぶさるほどに巨大化してしまう。現状の被害対策、課題は。

答 雑草やアカメガシワ等の雑木の相談があつた場合、市職員が現場の確認を行つており、雑草、雑木が繁茂していて隣家の敷地に越境するなど、近隣住民の生活環境に悪影響を及ぼし、十分に管理がなされていない場合は、土地所有者または管理者に雑草、雑木の除去を指導している。

課題としては、気候変動や生態系の変化などにより、動植物に関するトラブルも変化してきていると感じている。引き続き、他自治体の対応なども参考にしながら、生活環境の保全に努めていく。

【その他の主な質問】

○公共施設マネジメント計画における、廃校となる学校施設、保育所、学校給食センターの今後について

○若い世代の市政への参画を増やすには。

行田市の未来を見据えて

小林 淳一 (令和研究会)



問 行田市の人口動態はどう変化しているか。

答 近年、社会増に転じているが、主な要因は外国籍の方の入増である。課題は日本人の若年層の流出である。

問 課題への対策は何か。

答 子育て支援や教育の充実を通じて、移住・定住を促進し、住み続けたいまちを目指している。

問 鬼滅の刃コラボの田んぼアートについて、どんな成果があり、今後どう展開していくのか。

答 来場者や売上的大幅増につながり、SNSでも話題になった。今後は様々な企画も検討し、スタンプラリーや体験型企画で市内回遊と地域経済の活性化を目指す。

問 避難所の環境整備について。

答 災害時にも高齢者や乳幼児などが安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。空調整備を進めており、柔道場・剣道場も含めた快適な避難環境の整備に向け、今後具体的な検討を進めていく。

多文化共生を目指して／AIを活用する英語教育について

岩崎 彰 (蒼倫維新)



問 市民に占める外国人の人数と比率について。

答 8月1日現在2484人で、比率は3.2%である。

問 共生社会を築くための日本語を学び日本人と接することのできる団体はあるのか。

答 ボランティア団体行田にほんご教室があり、外国人を対象に、日本語学習を通じた文化・習慣の取得支援を行う。

問 市からのサポートにはどのようなものがあるか。

答 公益を目的として活動する団体に対しては、地域活動推進課において各種相談からイベントの企画や実施等運営のサポートを行っている。補助金は、行田市市民活動やる気応援助成金制度がある。

問 AIを活用する目的は。

答 タブレット端末のAIAアプリを使用し、いつでもどこでもAIと会話ができる。子どもたちの発音は録音され、AIが分析・判定、数値化した評価が即座に本人へ返るため、自身の英語力の把握、個別最適な学びと学習意欲の向上に結び付くと考えている。